

自己評価・自己点検のまとめ

令和5年度

【令和5年4月1日から令和6年3月31日まで】

学校法人 鳳明学園
認定こども園 高館幼稚園

当園では、子どもたちの健やかな成長と安全を確保するとともに、職員一人一人の教育・保育の質の向上を図るためにチェックリストを活用し、良かった点や改善点などを再確認しております。

保護者の皆様や地域の方々との連携をさらに深め、子ども達の大切な命を預かっているという使命感を全職員が共有していけるようにこれからも努めて参りたいと思います。

1. 評価項目の達成及び改善対策

評価項目	改善対策
<p>教育・保育の質の向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎学期のカリキュラムの見直し、姉妹園との園内研修からの学びや、研修にも意欲的に参加し保育に活かし教育・保育の充実につなげていった。今後もさらなる教育・保育の充実を図り、子どもの思いに寄り添い「子ども中心」の保育展開をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員も子どもたちにとって大切な環境。今後も意欲的に個々のスキルアップを目指し、職員間で学びを共有。全員で質の向上に努める。 ・遊びの充実。子どもたちの思いやつぶやきを大切にし、より良い心身の成長につなげるために、保育のふりかえり・改善に努める。
<p>衛生の保持について</p> <p>新型コロナウイルス感染症は第5類となり、対応等が変わった。保護者への周知、登園基準など全員が把握し対応することができた。</p> <p>コロナ禍で落ち着いていた他の感染症に罹患したときや行政から発信される情報には、細かく目を向け保護者発信につなげることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策に目が行きがちだが、日々の衛生の保持にも目を向け、園全体が子どもたちにとって、常に衛生的で安心して過ごせる環境にあることを職員間で意識していく。
<p>園内外、保育室内の環境のについて</p> <p>衛生の保持の項目でも挙げられたが、子どもたちが過ごしやすい環境づくり、環境構成を研修を通して1年取り組んできた。まだまだではあるが、少しずつ改善が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も子ども目線で物事をとらえて改善していきたい。慣れた間隔は断ち切り、常に子どもたちにとっていい環境なのかを考え、生活しやすい環境づくりに努める。
<p>避難訓練・不審者安心教室について</p> <p>様々な状況を想定して訓練を行い、子どもたちにもわかりやすくアイテムを使って防災意識を高めてきた。</p> <p>不審者訓練では、臨機応変に動き訓練をすることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に災害が起きた時のことを想定し行っているが、マンネリ化してきているように感じる。やり方等の再検討が必要。 ・不審者訓練では、さすまたの使い方など、常日頃から、職員が誰でもできるようにする。

自己点検の分析

① 職員のコミュニケーションについて

情報を共有する際は、ホワイトボードを使用したり、細目に話し合いをしたり、改善を重ねてきたが、うまく伝達されないこともあるため、記録に残したり工夫をして改善する。

② 掃除・環境整備の徹底

修繕・修理箇所は、すぐに修理を行うようにする。子どもたちが過ごす場所は、常に清潔かつ安全でなければならない。園内も園庭も子ども目線で見て環境を整えていくように努める。

③ 保護者対応について

保護者の気持ちに寄り添い、思いをくみ取りながら信頼関係を築くよう努める。子どもにかかわる小さなことでも伝え、こまめなコミュニケーションを大切にし、発信事項は、早目にわかりやすくつたえる努力をする。

⑤ 危機管理について

災害が起きたときは、迅速に対応できるように普段からクレドを見直したり対応できるように意識を高めていく。怪我や事故が起きたときは、すぐに話し合いを設け改善に努める。怪我や事故につながらないように環境を整え個々の危機管理への意識も高めていく。

クレドの見直し

園の信念をまとめた「保育クレド」は園活動に於いて基本となるものであり、全てに通じるものである。全職員が同じ方向を向いて歩く為に必要なバイブルである。教頭が年度末に見直しをしながら、新年度初めには全職員で読み合わせをし、心新たにスタートを迎えるようにしているが、ただ読み合わせをするだけで終わらせることなく、その時、その場面に応じた対応や心構えをしっかりと確認して話し合うことが大切である。

また、個々の質の向上を図っていると同時に、保育現場で起こりうる状況を想定し課題等を整理し、教頭や主幹保育教諭が中心となり、解決等を話し合いながら、常に最新の状態にしていきたいと考えている。

